

【エジプトプログラム】帰国報告書

広島県立安芸府中高等学校 2 年生

佐藤 貴太

私は今回エジプトプログラムに参加させていただき、エジプトでしか体験できないさまざまな貴重な経験ができました。エジプトの首都カイロまでは飛行機で広島空港から羽田空港、成田空港を経由して行きました。私は飛行機も海外も初めてだったので緊張もあり、約 15 時間のフライトにはとても苦労しました。カイロ到着後、考古学博物館を観光しました。博物館では「ツタンカーメン王の黄金マスク」や「ミイラ」などを見学したほか、古代エジプトを象徴する「コブラ」、「ハゲワシ」、「ふんころがし」がモデルとされた椅子や首飾りなども見学しました。その日の夜、歓迎夕食会を開いていただき、食事をしました。エジプトでは食事の際、水質に問題があるため飲料水がミネラルウォーターでないといけない点や、箸を使えない点、味付けなどが日本と違う点を実感しました。翌日は飛行機でアスワンに行き、「切りかけのオベリスク」や「コムオンボ神殿」を観光しました。「オベリスク」とは約 10 メートルから大きいもので 25 メートルほどの石の塔で神殿などに建てられた記念碑です。コムオンボ神殿はセツト神というワニの神を祭った神殿で、そこには古代エジプトの人が石の壁に記した一年間の予定を示したカレンダーのようなものがありました。ナイル川の氾濫の周期により陰暦が作られたことは知っていましたが、すべての予定が記されていたことにとっても驚きました。その後は、クルーズ船でナイル川を北上しながら移動して天空神ホルスを祭った「エドフ神殿」、アメン神を祭った「カルナック神殿」、「ルクソール神殿」を観光しました。「エドフ神殿」に移動する際、馬車に乗りました。その時に写真を撮ってもらうとチップを要求され、その人の必死さに驚き、同時に外国でのチップの重要性に気づきました。エジプトではドルまたはエジプトポンドが使われていてポンドは初めて使ったので計算に少し苦労しました。神殿以外にもイスラームの礼拝堂のモスクやエジプトの象徴ともいえるギザの三大ピラミッドの内部まで観光しました。モスクはイスラームの宗教にとっても関わりが深く本物を見ることができてよかったと思います。ピラミッド観光ではピラミッドができたいきさつや、230万個の石で作られていること、斜めの角度が約52度～54度ということなど色々教わりました。また、ピラミッドの内部については空間が1つあり、そこまで行くためにピラミッドの中を上らなければならず、道がとても狭かったのを覚えています。空間には棺のようなものが1つありとても暑かったです。ピラミッドは観光前日テロ事件があり、現地に行けなくなるかと思いましたが、なんとか行けて内部まで見学できてよかったです。

振り返れば、昨年の7月の災害時には精神的なダメージがありました。月日が経っても心の底には癒せない傷が残っていました。しかしながら、今回のプログラムに参加する機会をいただけたことで、エジプトの皆さんから手厚くおもてなしを受け、気持ちを切り替えることができました。また、エジプトとの友好関係・文化・歴史などを学び、楽しむことができ、自分にとって知識の面でも精神的にも成長できたと思います。学習面では英語を実践的に使用することで、自らの会話力不足という課題を見つけ、英語の重要性に気付くことができました。将来は公務員となり国や地域のために力になりたいと思います。エジプトと日本の友好関係を促進するような仕事を何らかの形で担えればと考えます。エジプト政府、関係者の方々、このたびは本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

